MCC　　http://www.mcccorp.co.jp

オートポリエチレンカッタ　取扱説明書

■ はじめに

オートポリエチレンカッタをご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読の上、十分理解した上で、正しくお使い下さい。

品　名	品　番
オートポリエチレンカッタ　Ｉ－１５０　セット	ＡＰＥＩ－１５０※
オートポリエチレンカッタ　Ｉ－１５０　本体	ＡＰＥＩ－１５１
オートポリエチレンカッタ用　駆動ハンドル	ＡＰＥＧ
オートポリエチレンカッタ用　バイス	ＡＰＥＶ

※APEI-150は、APEI-151･APEG･APEV と　工具箱　をセットにした商品です。

この取扱説明書は、オートポリエチレンカッタを安全にお使い頂き、あなたや他の人々への危害と財産への損害を未然に防ぐために守って頂きたい事項が記載されております。

お読みになった後は、オートポリエチレンカッタ（以後、カッタ）をご使用される方が、いつでもお読みになれるように、保管しておいて下さい。

わかり易くするための表示と図記号の意味は、次のようになっていますので内容をよく理解してからお読み下さい。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しております。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示しております。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも、安全に関する重要な事項が記載されていますので、必ずお守り下さい。

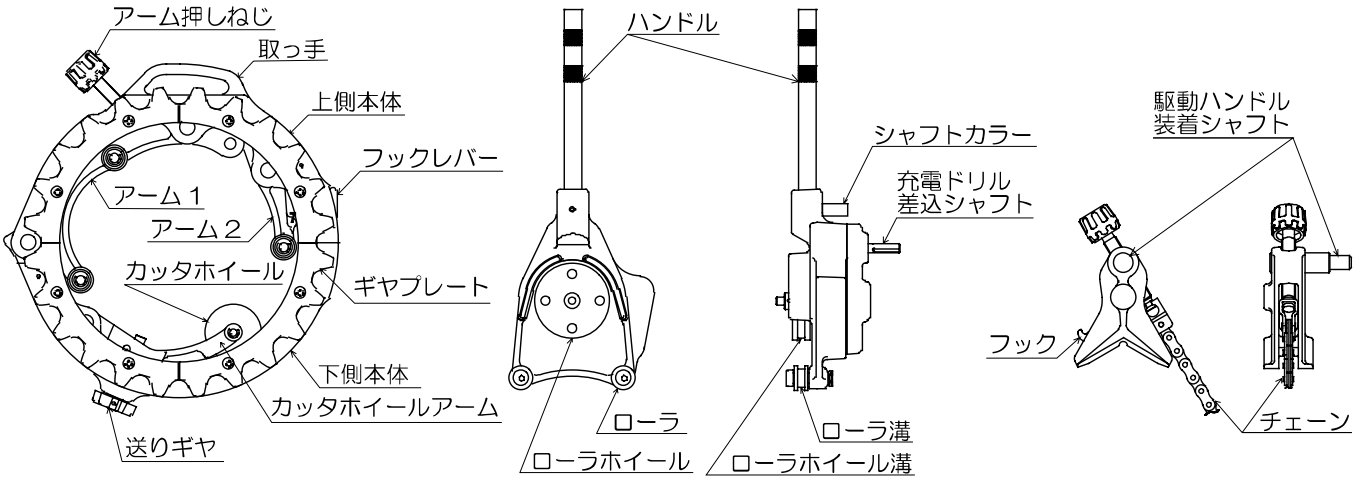
■ 使用目的

水道配水用ポリエチレン管、ガス用ポリエチレン管　及び　下水道用ポリエチレン管　の切断用工具。

■ 使用対象管

対　象　管　（規格）	呼び径	外径基準寸法
水道配水用ポリエチレン管　（JWWA K144）	100	125 mm
	150	180 mm
ガス用ポリエチレン管　（JIS K6774）	100	114 mm
	150	165 mm
下水道用ポリエチレン管　（JSWAS K-14）	100	125 mm
	150	180 mm

■ 各部の名称



本体　　駆動ハンドル　　専用バイス

■ 安全上のご注意

⚠ 警 告

①AC電源コード付き電気ドリル､インパクトドライバ､振動ドリルは使用しないで下さい。
②作業場は切断する管が水平に設置できる十分なスペースを確保して下さい。
③切断した管が落下しないようバランスを考えて管両側を樹脂管バイス（別売･品番:JPV-200、JPV-250、JPVS-250）や樹脂管パイプサポート（別売･品番:JPS-2、JPSS-250）などで支えて下さい。
④管を樹脂管バイスなどで固定できない場合は、専用バイス（品番：APEV）を使用して下さい。（管が転がる恐れがあります）
⑤常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにして下さい。安定した足場を必ず確保し、カッタや切断する管に必要以上に近づかないようにして無理のない姿勢で作業して下さい。
⑥周囲の安全を確保し、作業者以外は作業区域に近づけないで下さい。特にお子様には十分注意をして下さい。思いがけない事故が起こる恐れがあります。
⑦安全な服装で作業して下さい。
だぶだぶの衣服、ネクタイ、マフラー、タオル、ネックレス、ブレスレット、ストラップなど回転部に巻き込まれる恐れのある服装で作業しないで下さい。
⑧軍手など回転部に巻き込まれる恐れのある手袋を着用しないで下さい。
⑨長い髪は帽子やヘアカバーで覆って下さい。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
⑩作業中は、保護めがね、安全靴を着用して下さい。また、カッタや切断する管の下に足先など身体を置かないようにして下さい。
⑪作業中は、本体及び駆動ハンドルの回転部分には絶対に触れないで下さい。
⑫切断完了直後のカッタホイールは高温になりますので、触れないで下さい。
⑬本体、駆動ハンドル、専用バイスを改造しないで下さい。
⑭本体、駆動ハンドル、専用バイスを振り回したりしないで下さい。
⑮下記の切断には使用しないで下さい。
・生曲げ配管された管の切断。
・たて配管された管の切断。
・不断水工事での切断。
⑯管端面から10cm以上離れた位置で切断して下さい。管端面から10cm以下では安定した作業ができず、カッタが不意に落下する恐れがあります。
⑰充電式ドリルドライバー（以後、充電ドリル）の連続使用は避けて下さい。
充電ドリルやバッテリが熱くなっている場合は作業を中断し、温度が下がってから使用して下さい。

⚠ 注 意

①本体、駆動ハンドル、専用バイス、セット用工具箱は落下させたり、放り投げたりしないで下さい。破損又は機能に支障が発生する恐れがあります。
②対象管以外のものを切断しないで下さい。
③扁平や曲げなど変形の著しい管は切断しないで下さい。
④本体のアームや、駆動ハンドルのローラなど可動部分がスムーズに動くか、損傷していないかなど常に点検して下さい。異常な動きや異常音を感じる場合は使用を中止し、点検・修理を依頼して下さい。
⑤ボルト・ナット、ねじに緩みがないか点検し、緩みがあれば増し締めを行って下さい。
⑥水中では使用しないで下さい。
⑦本体、駆動ハンドル、専用バイス及び管に付着している土や汚れは取り除いてから使用して下さい。
⑧カッタホイールは大変鋭利になっています。素手で触れないよう注意して下さい。
⑨充電ドリルはバッテリ１４.４Ｖ以上をご使用下さい。(バッテリ１２Ｖ､最大締付トルク２２.６N･m以上でもご使用頂けますが､回転数の設定は低速(Low)モードとなります。)
⑩トルクの不足(最大締付トルク２２. ６N･m未満)する充電ドリル、バッテリの古い充電ドリルは使用しないで下さい。充電ドリルの故障の原因となります。
⑪充電ドリルの取扱方法については、充電ドリルの取扱説明書に従って下さい。

■　**作業の前に**

①本体、駆動ハンドル、専用バイスの各部に異物の付着がないか点検し、異物が付着していれば取り除いて下さい。特に、本体の「カッタホイール」、「ギヤプレート」、及び駆動ハンドルの「ローラホイール」は入念に清掃して下さい。清掃後は、「ローラホイール」外周にグリースを塗布して下さい。

②本体の「アーム」や、駆動ハンドルの「ローラ」など可動部分がスムーズに動くか、損傷していないかなど点検し、異常があれば使用を中止し、点検・修理を依頼して下さい。

③ボルト・ナット、ねじに緩みがないか点検し、緩みがあれば増し締めを行って下さい。

④充電ドリルのバッテリをフル充電して下さい。
充電ドリルはバッテリ１４．４Ｖ以上をご使用下さい。（バッテリ１２Ｖ、最大締付トルク２２．６N･m以上でもご使用頂けますが、回転数の設定は低速(Low)モードとなります。）AC電源コード付き電気ドリル、インパクトドライバ、振動ドリルは使用しないで下さい。
気温が低い場合はバッテリの性能が十分に発揮できない可能性がありますので、充電ドリルの取扱説明書に従って充電及び作業を行なって下さい。

⑤本体の「取っ手」、及び駆動ハンドルの「ハンドル」をしっかり持って運搬して下さい。

⑥本体、駆動ハンドル、専用バイス、及び充電ドリルを手の届く範囲に準備して下さい。

⑦管に付着している土や汚れなどを取り除いて下さい。

⑧管は水平に、かつ、切断した管が落下しないようバランスを考えて設置して下さい。切断個所の管周囲は、15cm以上の空間をあけて下さい。

⑨管に扁平や曲げなど変形がある場合は、本体のみを切断箇所に取付けて手で軽く回るか確認して下さい。手で軽く回せないほど変形の著しい管は切断できません。管の変形のない箇所を切断して下さい。

■　**使用方法**

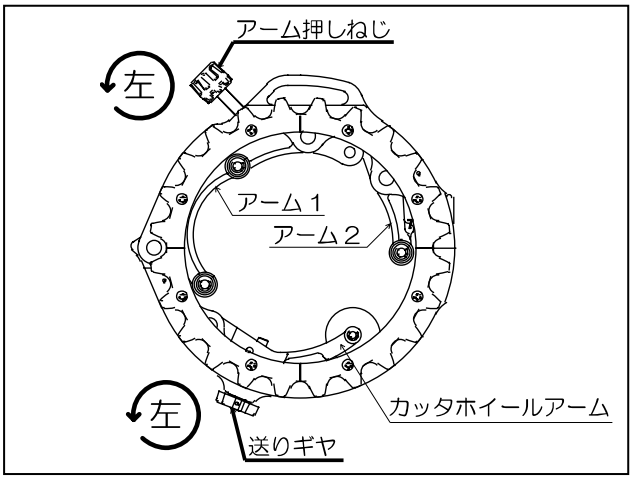
①切断する管を水平に設置し、樹脂管バイス(別売･品番:JPV-200、JPV-250、JPVS-250)や樹脂管パイプサポート(別売･品番:JPS-2、JPSS-250)などで動かないように固定して下さい。

注：樹脂管バイスは樹脂管バイススタンド(別売･品番:PVS-S)や他の重量物に固定して下さい。

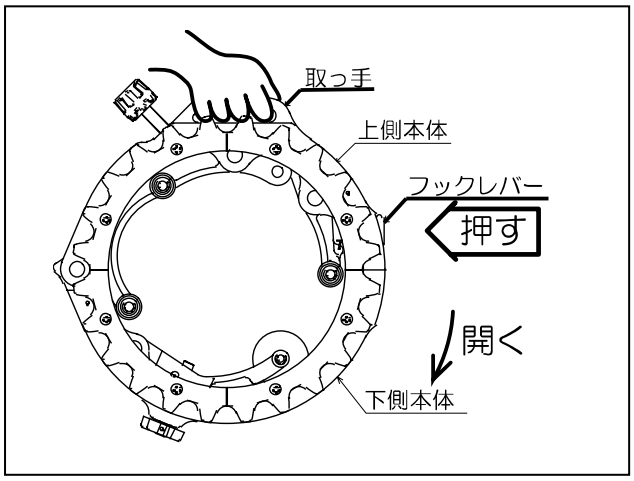
注：切断時に樹脂管バイスが動いてしまう場合は、専用バイスを併用して下さい。

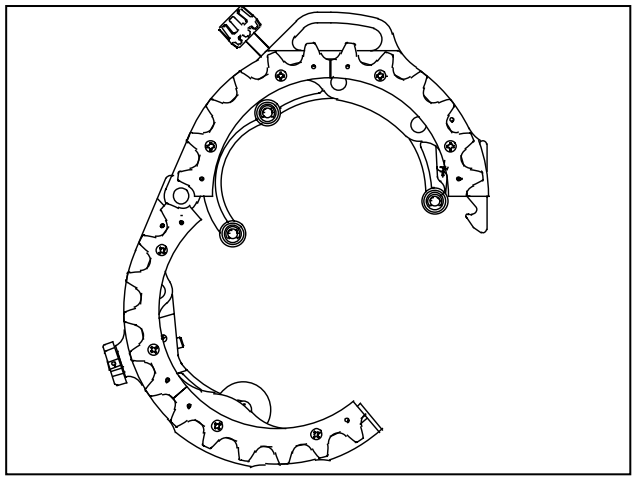
②「アーム押しねじ」「送りギヤ」を **左回し** して「アーム１」「アーム２」(青色)及び「カッタホイールアーム」(赤色)を全開位置にして下さい。

注：「アーム押しねじ」は左回ししすぎると外れますが、もう一度右回しで取付けて下さい。

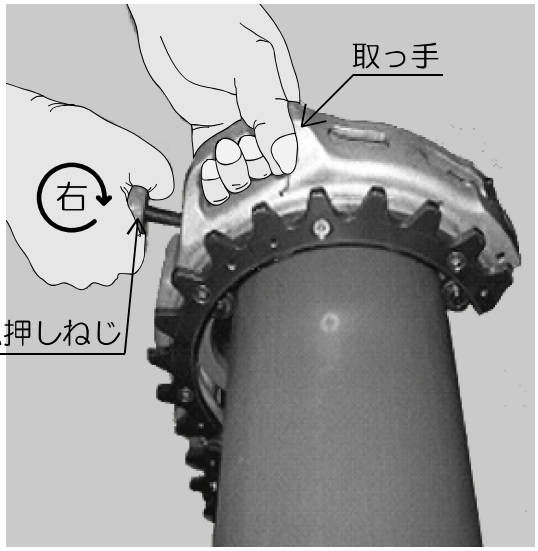


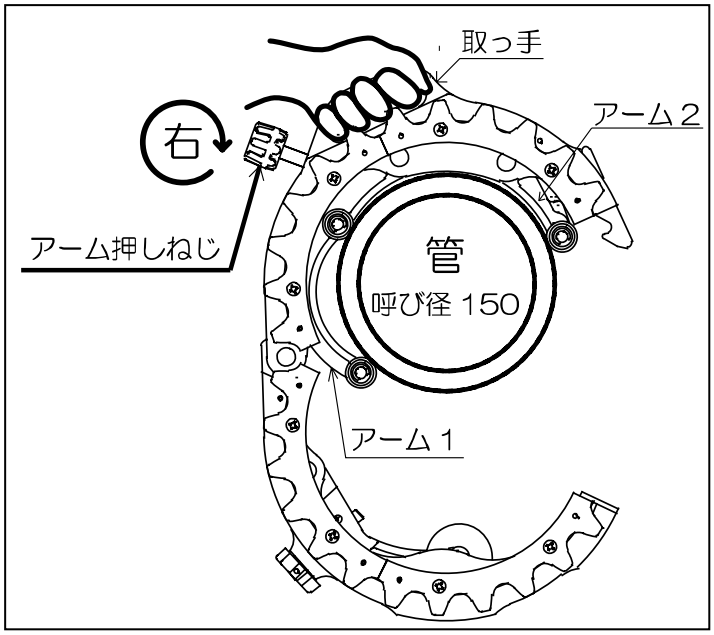
③「上側本体」の「取っ手」を持ち、体から少し離すなどして開いた「下側本体」が足などに当たらないよう注意の上、「フックレバー」を押して本体を開放して下さい。



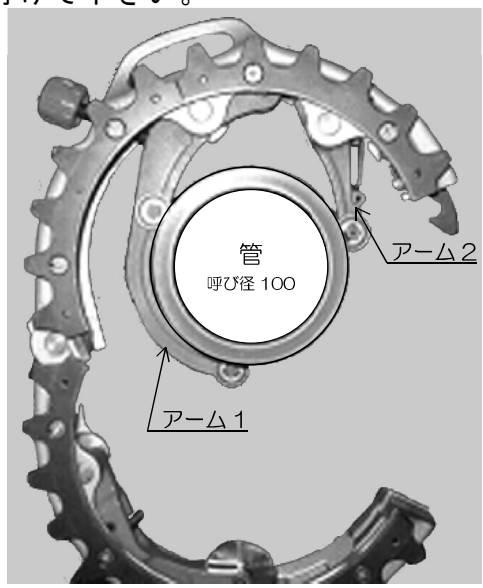


④「上側本体」の「取っ手」を持って、管の切断したい箇所に上部からかぶせるようにセットし、「アーム押しねじ」を **右回し** で締め込み、「アーム１」「アーム２」で管を保持して下さい。「アーム２」先端の目印で切断位置を合わせます。





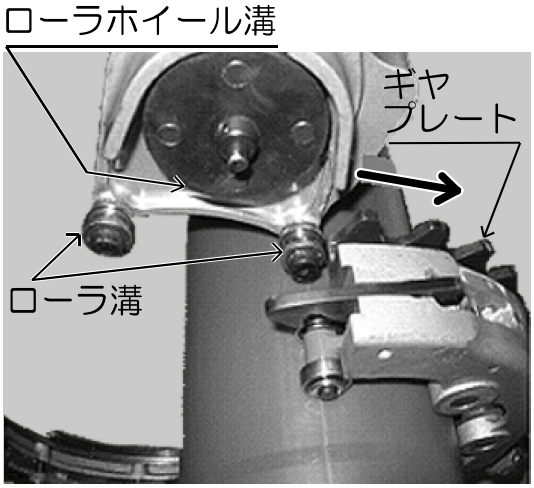
・注：呼び径100の管の場合は本体を少し持ち上げながら、「アーム１」「アーム２」の全てのローラが管に接するように取付けて下さい。

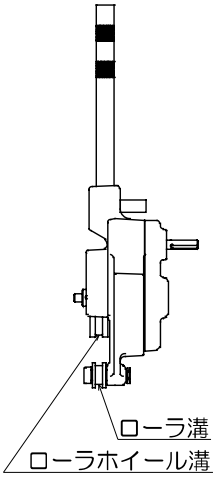


・注：管に扁平や曲げなど変形がある場合は、本体のみを切断箇所に取り付けて手で軽く回るか確認して下さい。手で軽く回せないほど変形の著しい管は切断できません。管の変形のない箇所を切断して下さい。
・注：管端面から10cm以上離れた位置で切断して下さい。管端面から10cm以下では安定した作業ができず、カッタが不意に落下する恐れがあります。

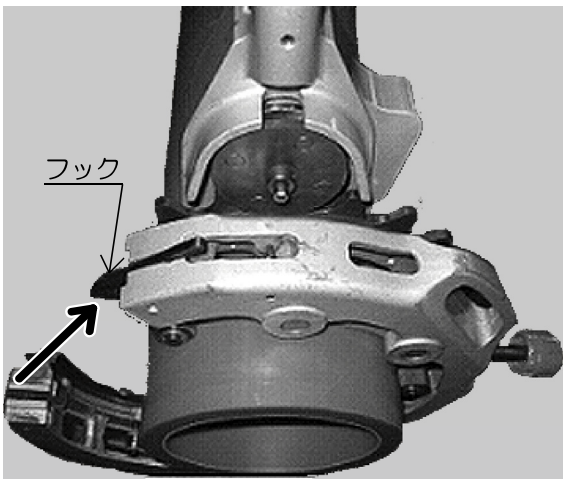
⑤管をしっかり保持できたら、本体上下を開いたままの状態で駆動ハンドルの「ローラホイール溝」及び「ローラ溝」で本体の「ギヤプレート」を挟み込むようにして、駆動ハンドルを本体に取付けて下さい。

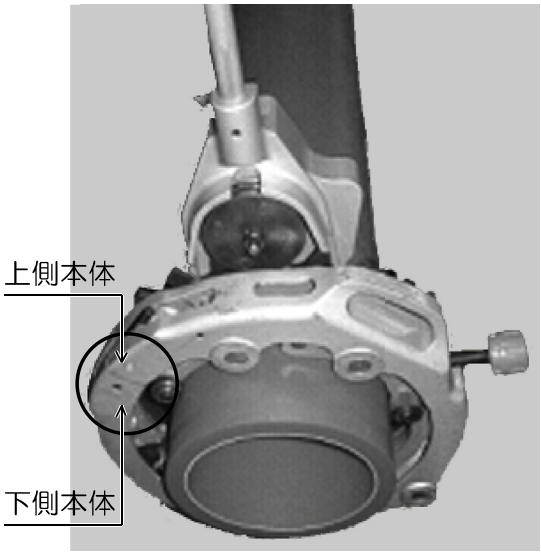
⚠ 警 告
駆動ハンドルと本体の取付け作業中や切断作業中は、駆動ハンドルの「ハンドル」から絶対に手を離さないで下さい。駆動ハンドルは本体の「ギヤプレート」上を自由に動きますので、「ハンドル」から手を離すと駆動ハンドルが「ギヤプレート」に沿って落下し、カッタの破損や事故の恐れがあります。



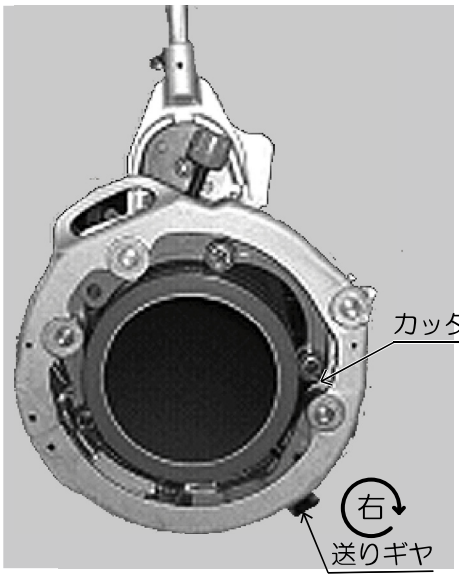


⑥駆動ハンドルを手で支えたまま「下側本体」を持ち上げ、フックを引っ掛けて本体を確実に閉じて下さい。
・注：「上側本体」と「下側本体」の合せ部にすきまがないか確認をして下さい。合わせ部にすきまが見られたり、フックが浮き上がった状態では本体が確実に閉じていないため取付け直して下さい。
・注：本体を明けたまま充電ドリルを駆動させないで下さい。破損の恐れがあります。

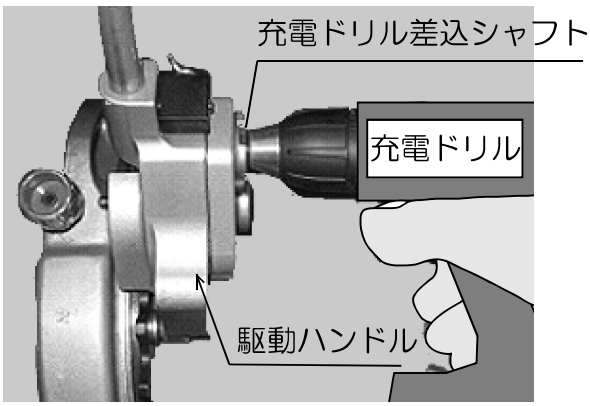


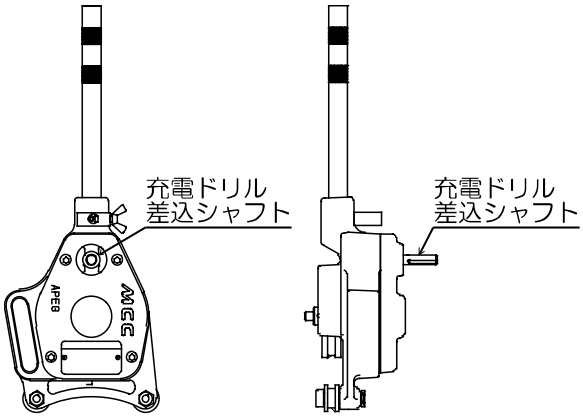


⑦駆動ハンドルを手で支えたまま、「送りギヤ」を **右回し** して、「カッタホイール」が管に触れるまで送り出して下さい。



⑧駆動ハンドルの「充電ドリル差込シャフト」に充電ドリルを取付けて下さい。
・注：充電ドリルの使用方法については、充電ドリルの取扱説明書を参照して下さい。
・注：クラッチ付充電ドリルの場合は、ドリルモードに設定して下さい。

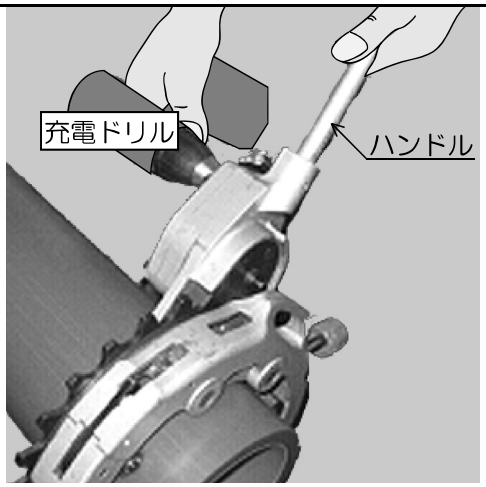




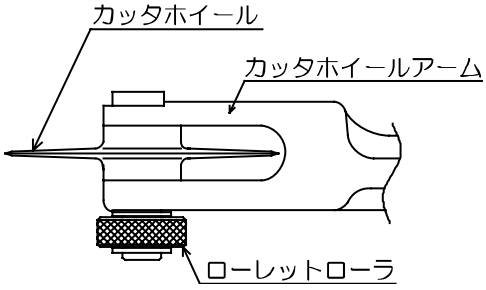
⑨カッタに必要以上に近づかないようにして、駆動ハンドルの「ハンドル」を左手に持ち、充電ドリルを右手に持って、管を切断して下さい。充電ドリルのスイッチは親指で操作するようにします。

⚠ 警 告

切断作業中は、駆動ハンドルの「ハンドル」から絶対に手を離さないで下さい。切断作業中（充電ドリルのスイッチをＯＮ(入)状態）に駆動ハンドルの「ハンドル」から誤って手を離すと、駆動ハンドルが「ギヤプレート」に沿って自走し事故の恐れがあります。また充電ドリルのスイッチをＯＮ(入)状態でロック(保持)するボタンなどの機能は、使用しないで下さい。



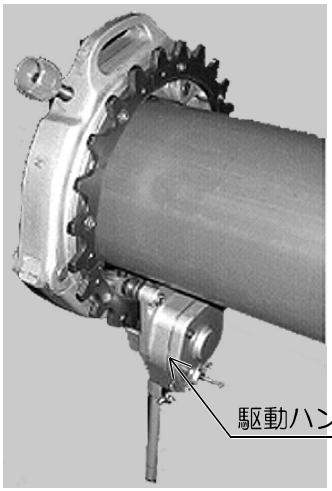
・注：通常、切断完了は管が分離することにより判断できますが、カッタホイール横のローレットローラによるマーキングが管表面に現れた時点でも切断完了と判断できます。



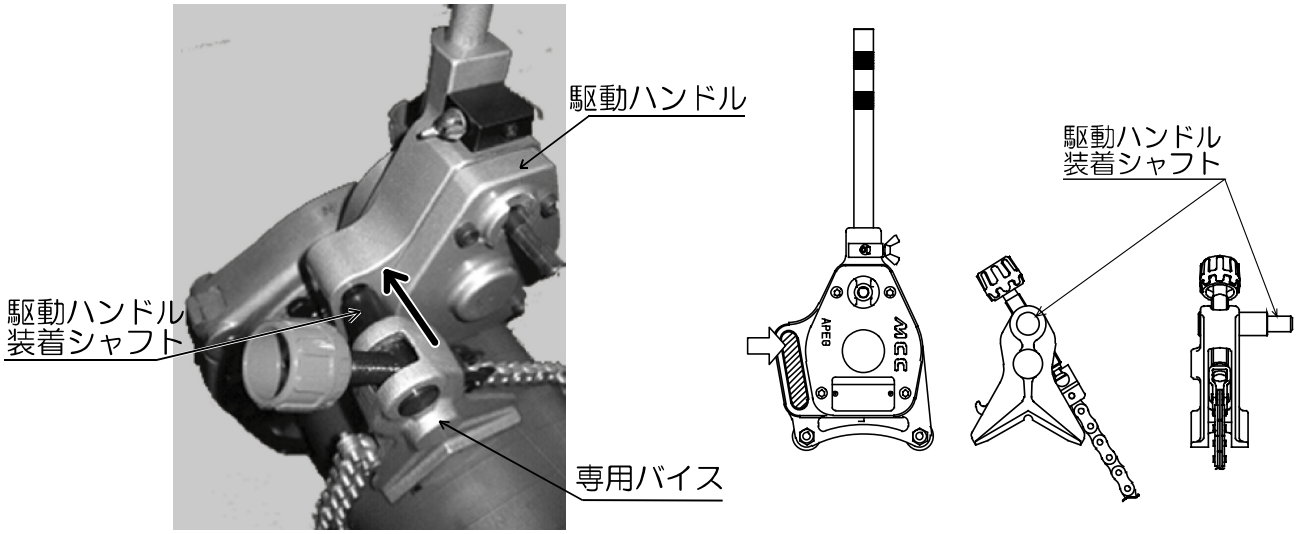
⚠ 注 意
切断完了後はすぐに充電ドリルのスイッチをＯＦＦ(切)にして下さい。切断完了後も作業を続けるとカッタが破損する恐れがあります。

⑩切断完了後の取り外しは、逆の手順で行なって下さい。

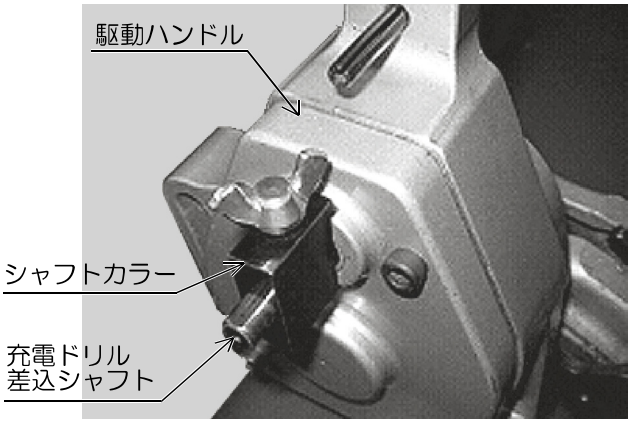
◆ 作業途中にカッタから離れる場合
充電ドリルを取り外し、駆動ハンドルを最下部に下ろしておいて下さい。

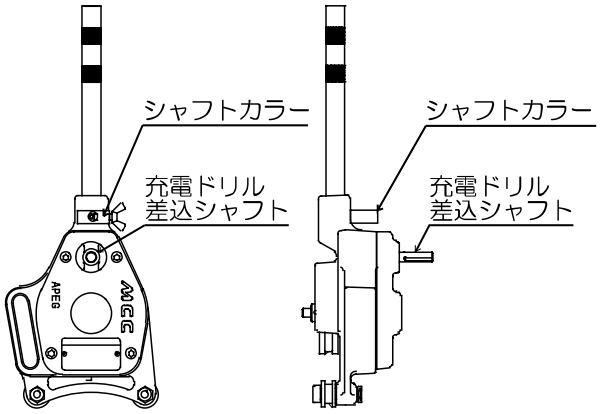


◆ 管を樹脂管バイスなどで固定できない場合
専用バイスの「駆動ハンドル装着シャフト」を駆動ハンドルの長穴の奥まで差し込み、管に専用バイスを固定して切断して下さい。
・注：管を樹脂管バイスなどで固定できない場合は、必ず専用バイスをご使用下さい。管が転がる恐れがあります。



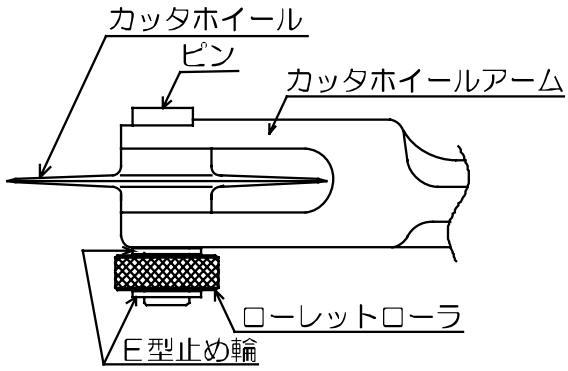
◆ 充電ドリルがバッテリ切れなどにより使用できない場合
駆動ハンドル付属の「シャフトカラー」を「充電ドリル差込シャフト」に取り付けると、手動のラチェット式カッタとして使用できます。
・注：専用バイスを取り付けたままでは、手動操作はできません。





■ 替刃（カッタホイール）
替刃をお買い求めの時は、「ＰＥＥ２００」とご指定下さい。

交換手順
①保護手袋を着用して下さい。
②マイナスドライバなどで「Ｅ型止め輪」を外し、「ローレットローラ」を抜き取ります。
③２つ目の「Ｅ形止め輪」も外し、「ピン」を抜き取り、古い「カッタホイール」を取り出します。
④新しい「カッタホイール」を逆の手順で組み付けて下さい。
・注:「ピン」の切り欠き部と「カッタホイールアーム」の切り欠き部を合わせて下さい。



※Ｅ型止め輪は、ローレットローラの両側に各１ケついています。

株式会社 MCCコーポレーション
株式会社 松阪鉄工所
☎(059)234-2454
http://www.mcccorp.co.jp